

<議事概要>

1. 開会

司会の都市計画課・安福課長に続き、都市整備部・原田次長が開会のあいさつを行った。
(原田次長のあいさつ内容は、以下に示す)

2. 議事

第1回策定検討委員会の開催結果等について、(1)住宅マスタープラン、(2)都市計画マスタープランの順に、議事の概要を以下に示す。

発言者	議事概要
原田次長	<p>開会あいさつ</p> <p>現在、都市整備部では都市計画マスタープランと住宅マスタープラン、2つの計画の見直しを並行して進めております。ワーキンググループや策定委員会などの審議過程を同じにし、また、アンケート等のデータ分析を同時に行うことによりまして、施策の連携を図ると共に、コストの削減、省力化を図ることとしております。</p> <p>皆さまご承知の通り、今年7月にプロポーザル方式によりまして業者選定を行い、本日お越しいただいております株式会社エイト日本技術開発様に決定をしております。以後、改定業務を共に進めているところでございます。</p> <p>本日は第1回目ということで、実施しました市民アンケート、市外から市内事業所へ通勤する人へのアンケート、また、市内事業者へのヒアリング内容などを分析した結果などを取りまとめ、まちづくりの課題を抽出しております。</p> <p>委員の皆さまにおかれましては、様々な視点から幅広く忌憚ない意見を頂戴したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。</p> <p>(委員紹介、資料確認)</p>
田原会長	<p>改めまして、おはようございます。だいぶ寒くなってきましたが、幸か不幸かマスクを付けないといけないので、結構、風邪をひかないものですね。今まで如何にお互いうつしあっていたのかが非常に良く分かる今日この頃です。こういう事態の中で、こういう形で集まっていた頂き、誠にありがとうございます。改めまして感謝申し上げます。</p> <p>さて、2つのマスタープランを並行してやるということは、私の経験では、実は初めてです。住宅と都市計画、両方の指針、マスタープランを2つ作っているということで、考えてみましたら、両方同時に作ることのメリットはすごく大きいですね。何で今まで同時にやっってこなかったかと、今回改めて考えている所です。ただ、メリットはありますが両方を一気に審議していくのは、非常に私どもとしては大変な部分もあり、その辺はメリットが非常に大きいということでご容赦いただき、忌憚のないご意見を頂戴しながら、良い物にしていきたいと思っています。</p>

	<p>長くなりますけれど、加西市は市街化調整区域を如何に活用するかということでは、恐らく日本でも一番、先進の自治体ではないかと思っています。どちらかと言うと都市計画マスタープランは、市街化調整区域の活用を意識してきたけれども、住宅マスタープランは必ずしもそういう構成にはなっていないのかなど。前回の計画策定委員をしておりましたので、反省を込めてそう思っています。両者を連携すると同時に、加西市の都市計画の特徴を活かしたマスタープランができれば良いなと思っています。その辺に関しても皆さま方の知恵を拝借したいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>多少長くなって大変恐縮でしたが、本日の会議は12時までには終わるようにしたいと思います。何しろ資料そのものが非常に厚くて、これを事務局から説明をしてもらわなければならない時間、理解するのは難しい面があります。質疑応答の中で、理解を深めていただくことができるよう努めていきたいと思っておりますので、皆さま方もそれを意識して、何とか時間までに終わるようにしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>田原会長</p> <p>田原会長</p> <p>●●委員</p> <p>事務局</p>	<p>(1) 住宅マスタープラン改定検討についての質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは、1つ目の議事、住宅マスタープランの策定について、事務局から説明をお願いします。 <p>(資料説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント資料で説明を受けたが、関連する資料として、資料I-1の事業所従業者へのアンケート調査や、資料I-2の住宅関連事業者のヒアリング等がある。不明な点があれば合わせてご発言いただきたい。 ・かなり駆け足で説明をしていただいたので、もう少し詳しくとの要望もあるかと思う。それも遠慮なくおっしゃっていただきたい。 ・スライド P18、「不動産市場の活性化とも関わる中古市場については、指標や施策（取組）が不足していると考えられる」と書かれている。これは、要は以前の住宅マスタープランの方では、そういった指標がなかったことかと思うが、今回の方では、そういった指標を新たに決めていくのか。 ・施策に関する、いわゆる成果指標については、これから検討するが、中古住宅、特に空き家になっている物については、全国的に非常に課題が大きい。空き家バンクの取扱いという形になっているが、あくまで分譲なので、現行の住宅マスタープランは「中古住宅市場（借家）」と書いており、住宅の選択肢を増やすことで色んな世帯の方が加西市内で住宅を探せるようにという意味では、成約件数を指標としていきたいと

	<p>考えている。</p>
田原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・23枚目のスライド、「加西市の住まい・住環境をとりまく状況」のまとめとして、「20代の転出超過」という話が出ている。もう少し詳細に言うとうどういうことか。例えば、進学で出て行くケースもある。あるいは、こちらで1回就労した後に出て行くとか、その辺の細かい話は、もう少し分かるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢層と転出という関係性、転出理由が就職のため、転職のためという選択までは分かるが、一度就職して出る、卒業したけどまだどこか違う大学に入るなど、あまり細かい所は実は分からない。20代前半が大学卒業時、就職年齢時というところで1つのピークがあり、たぶん理由として大きくそのようになっていると思われる。 ・ベースが住宅土地統計調査、あくまでも抽出調査なので、はっきりと明確に細かな分析は、サンプル数も含めて難しく、推測という形になっている。
田原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し詳しい状況が分かると良い。例えば大学の時に、既に市内に居なくても住民票を移していないケースがほとんどだと思う。実際は加西市に居住していないという実態が考えられるが、実はそうではないのは、どういうことなのか。そのあたりに関して、もう少し詳しく分かる資料は、特に加西市が持っているヒントになるような物は何かないか。正確なというより、どういうケースがあるか多少分かると腑に落ちる感じ。一般的には進学、その後の就職で転出するとは思うが。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市の方で分かるとしたら転出転入情報しかない。そこに理由を書き込む物ではないので、どこへ移ったかというのであれば分かるかも知れないが、就職や入学は年齢からの推測しかできないのが実情。
●●委員	<ul style="list-style-type: none"> ・直接的に表現する物はないが、現在、市民課窓口で転入出の届けに来られた方々にアンケートをお願いしている。そのアンケートで、転出あるいは転入の理由や転入元の住所地、転出先の住所地を聞いている。現在の世帯人数、単身で出られるか世帯となって出て行くのかみたいなことも問い、年齢層と共にアンケート調査している。ただ、アンケートは必須ではなく任意での回答なので、情報とすれば少し不安定な部分もある。そういう物であれば、市民課で取ってもらった物を人口増政策課で集計しているので、少し参考することはできると思う。 ・現在の18歳、22歳、大学の入学と卒業の時の人の動きが必ずしも把握できるわけではないが、18歳時点の市内在住人口が4年後、もしくは5年後の残存率という形で、ヒントを得ることもできると思う。 ・ここ数年は現状の学生たちは、かつての地方国立大学というよりは、近所の私立大学へという動きになっているとよく聞く。加西市の場合、それに加えて、できるだけ転出を抑えたい意向もあり通学定期補助制度

	<p>も行っているので、加西市の場合は住民票を置いたまま大学に通うという人たちは、それなりにはあるような情勢になっているのかも知れない。確かな情報ではないが、ここ数年、自宅通学をする学生が増えてきている状況があると聞いている。ただ、資料に示されている数値が何年のデータかは分からないので、その状況が反映されているか分からないが、現在はそのような状況かと思う。</p>
<p>田原会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大変貴重なご意見で、少しいメージができてきた。基本的にはデータが示している通り、傾向としては明快だが、実際問題として、非常にわずかな数でも施策に反映すべきことは結構あるだろうと思うので、そういう辺りのことも少し見て行く必要があるなど、今の話を聞きながら考えた。
<p>●●委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド P32、今回の計画策定に当たって、策定するマスタープランは何年計画なのか。前回は平成 21 年から今回まで、改定のタイミングを元々持っていなかったのかということも含めて、少し気になった。今回策定される計画は、5ヶ年計画あるいは10ヶ年計画、そういった物も含めた計画策定になるのかを教えていただきたい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の平成 21 年の住宅マスタープランは 10 年を目安に改定しようという形で作ったが、その 10 年のスパンを見る中で、加西市の総合計画が昨年策定されたことと合わせて、都市計画マスタープランも同時に 10 年スパンと聞いていたので、田原会長も初めに言われたように、住宅と都市計画のマスタープランは関連性がある。今までこれができてこなかったが、このたび同時にすることにより、メリットが非常に大きいと事務局の方で考えていた。本来ならば住宅マスタープランを長寿命化計画と共に、同時に策定する必要があったが、総合計画と都市計画マスタープランと住宅マスタープランをセットにすることにより、より一層、加西市の今後の住宅や都市計画のあり方を、一度に分かりやすく表現できるのではということ、10 年を少し超えてしまったが、この新たなマスタープランについては、今回一緒に進めることにより同時にまた 10 年後、並行してやるという方策に切り替えたいと思う。その点、ご理解をよろしく願いたい。
<p>田原会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・細かい点は、実はまだかなりあるだろうと思うが、計画の構成と骨子案が出ており、この中で県の計画を強く踏まえて整合性をという形になっているのが、今回のかかなり特徴だと思う。その辺りについて、特にご意見があればお聞きしておくべきかと思う。細かい点は、まだ今から施策の検討が作業の中に入っているので、そこに反映させることは可能だが、この次は 2 月、そこまでの作業でとりあえずこの骨子案に沿って進めていくことになるため、この辺りは重点的に、もしご意見があれば、今日出していただけるとありがたい。

田原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・そう申し上げて別の細かい質問、スライド P26、「今後の住まい、加西市での居住可能性」で、加西市が4位に挙がっている。現住地との関係で、もう少し詳しく分かれば教えていただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・参考 I-2 「市内事業所従業者へのアンケート結果」の P8、「これからの住まいについて」という問いの集計がある。現住地とのクロスもしたが、特に相関がなかったのでここには表示していない。 ・今回、回答いただいた方の基本的属性は、20代の方から50代で、60代の方は少ないが、20代から50代は、ほぼ均一にお答えいただいている。その中で現在、持家にお住まいの方が7割、借家にお住まいの方が3割という比率であった。その3割、もしくは7割の方の一部も含めて今後引っ越す、住み替える可能性がありますかという問いで、お答えいただいたのがP8の上の円グラフ。69%の方はもう住み替えはないとおっしゃっている。ただ、23%と7%の方、「いずれ住み替えたい」「近いうちに住み替えたい」とご意見がある方が3割いらっしゃる。そういう方々に、どこに住み替えますかという問いの中で、トップが姫路市。その次は加古川市、色んな意味で都市機能、生活利便、交通便利も含めて非常に優位な条件を持っている所です。その次は小野市、4番目が加西市になっている。周辺の加東市や西脇市、その他の市よりは加西市が良いと、通勤されていて馴染みもあると思うが、それだけではなかなか選びにくいのが住宅だと思う。居住地としての評価は、それほど低くはなく、姫路市の上に行くとか加古川市の上に行くというのは、また別の要素がないとなかなか難しい。そういう意味では、居住地としての評価が低いわけではないというのが、この結果から推測した。
●●委員	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人対応で、今度の計画には一歩踏み込んだ、外国人労働者の人権と環境に配慮した施策といったような、踏み込んだ表記がされている。現状の外国人の方の意向などの調査は、どのようにされるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人の方への調査については予定はない。今回、答えていただいているのは、市外から市内へ通勤されている方々にお聞きをしたアンケートになっているので、参考 I-2 の P13 に、都市計画マスタープランの市民へのアンケートと同じ項目、市内の方が感じられていることと、市外から、まさに自分たちの職場に居る、仕事仲間の方が外国人であるという方が感じられていることとの比較ができるように、同じ設問を設けている。 ・この中で、市外から通われている方は、たぶん身近に外国の方が就労されている環境だろう。そういう方々にとっては、「就学環境の整備」「分かりやすい行政情報の発信」、その次と並んで「外国人が住みやすい住宅の供給」とか、その辺あまり差がなく並んでいる。現行の住宅マスタープランは、どちらかと言うと情報発信とか案内表示だったが、そうではなく、もうちょっと住まいのこと、就学のことについて少し手当てが要るのではないかというのが、外国人の方と身近にいらっしゃる方々が感じ

	<p>られていることなのかなということ、外国人の対応については少し強化するべきかと思っている。具体的に、直接外国人の方にお話を聞くことは、今の所、住宅マスタープランでは予定を立てていない。</p>
●●委員	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には外国人を雇用されている企業が、今回のアンケートを取られている対象と思う。そこで外国人労働者が実際どういう所に住んでいるかとか、社宅か自分で借りているかどうか、何人で住んでいるかというような実態調査は色んな国の人が居るので言葉の壁もあり難しいと思うので、逆に企業や事業者に対してそんなアプローチはできるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 確か3年ぐらい前だと思うが、産業振興課と都市計画課と共同で、外国人技能実習生さんが多く居られる会社に、ヒアリング調査をしたことがある。その時に、居住の状況なども話を聞いている。データが古い可能性はあるが、基本的に技能実習生さんが多い会社は変わっていないと思うので、そのデータを使えるのであれば、フィードバックしてやってみようと思う。
田原会長	<ul style="list-style-type: none"> 外国人労働者に関する表記は、かなりデリケートな部分がある。前回の住宅マスタープランにも少し、外国人の居住については触れているが、どちらかと言うと、具体的な話というより理念先行と言ったら叱られるが、そういう項目として記載されがちな部分がある。私の理解している加西市の現況では、もうちょっと生々しい居住、生活の実態があるわけで、その部分を踏まえて施策として展開していく必要が当然ある。今ご指摘の会社との関係は、すごく重要な話であり、何らかの形でやはり、具体的な状況を踏まえて施策化して行くことで、必要があれば、何か実態をもう少し詳しく知ること必要かなと思ったので、また事務局でも検討をお願いしたい。
●●委員	<ul style="list-style-type: none"> 調整区域で民家、社宅の話の続きで、会社の社宅として活用することも視野に入れられるのかと思うが、あまりこれを出すと、勝手にされている所もあるのでなかなか表記しにくい感じかな。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘の通り、調整区域の線引きの前に建った住宅、後で建った住宅で色々変わってくることもある。線引き前の住宅は、建て替えなり住み替えは容易にできる。言い方がまどろっこしくて申し訳ないが、社宅や寮と言ってしまと色々問題があるが、シェアハウスと言うと特に法的どうこうということはないこともある。問題は、線引き後の住宅を使う場合、これは明らかに法的に色々問題が起きる。線引き後と言っても、もう50年経過しているもので、そういった空き家は当然多くある。それについては、今回の住宅マスタープランの説明や、次に行く都市計画マスタープランの説明の中では出ないが、今、私ども都市計画課で、特別指定区域という制度を使って、線引き後の空き家も、そういうシェアハウスや寮、社宅として使える制度を、今、兵庫県と交渉している。

	<p>本当は来週の都市計画審議会でお話をする予定だったが、こういうご質問が出たのでお話しするが、基本的には兵庫県は、G0 を掛けてくれた。ただ、問題は、自治会が受け入れるかどうかの問題がある。これは今後、春ぐらいまでの間に自治会と色々な話し合いを続ける予定で、受け入れてくれる自治会の中の空き家については許可が出せるという方向で、令和4年度中には区域指定できるように考えている。</p>
<p>田原会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・結構デリケートな部分もあり難しいが、形としては色々なことができる方向で、進められているようですので、詳しい話はまた審議会に掛けた段階で報告いただけるのかなと思う。その点に関してはよろしく願いしたい。 ・今の話、住宅マスタープランの中では結構重要な課題だと思う。書きぶりも、非常にデリケートな部分もあるので、工夫いただけたらと思う。
<p>田原会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他にございませんか。特に計画の骨子、構成と骨子の所は、分かりやすいのは分かりやすいと思う。こういう形で良いのかどうか、ちょっと改めてご確認をいただければと思う。
<p>●●委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この場で言うことではないかも知れないが、アンケートを取る時に教育委員会にも依頼に来られて、各学校の職員もアンケートに答えている。その様子や、中には校長先生からも声掛けをしてもらって、その状況を聞いたが、今、市外に住んで市内の学校に勤めている教員に、加西市に住まないのかと言われた方もいらっしゃる。その教員が言いますのは、加西市内の学校に勤めていますので、同じ所に住むのは嫌だと言う職員も居たり、中には加西から一旦出て外で住んでいる職員も居る。細かく話を聞いたら、子どもができて今は市外に住んでいるが、その子どもが小学校に就学の時には、また考えるみたいな話が出たことも聞いた。子どもが小学校に上がる時に、どこに住むのかも非常に大事なことで、中学校だったら通学は自転車通学で行くが、小学校は徒歩で行くこともあり、なるべく小学校に近い所が良いみたいなことも、その話の中で意見が出ていたみたいなので、紹介しておく。
<p>田原会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージの節目の話は、住マスにとっては非常に根幹になるような話で、非常に参考になると思う。 ・そういう意味で、スライドの P39、「通勤・通学（学校の選択肢）ニーズへの対応」は、住宅マスタープランに記載しない方向で考えているわけですので、記載しない物についてどういう形で扱うかは工夫が要るのかなと思う。要するに、ライフステージの節目の所は、各論は記載しなくても良いが非常に重要な話なので、施策の方向としては、もちろん書かれるとは思いますが、その話と「連携すべき関連計画等への集約」が、どこにあるかがすぐ分かるような工夫が必要かと思うので、また検討をお願いします。

田原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今日でお終いというわけではなく、2月に次回の策定委員会をやるので、その折にまたご意見を頂戴することは可能です。もしそれまでに何かお気付きの点があれば、事務局の方に言っていただければと思う。ぜひよろしくお願ひしたい。
(2) 都市計画マスタープランについての質疑応答	
田原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅マスタープランについてはここまでにさせていただき、議事(2)都市計画マスタープランについて、事務局から説明をお願ひしたい。 <p>(資料説明)</p>
田原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは引き続き、ご質問ご意見、お願ひしたい。
●●委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民意向調査をされて、加西市と同じような規模の地方都市と比較して、加西市に特徴的なアンケート結果とか特徴的な課題、他の市ではないような部分はどこか見つかった所はあったか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・参考Ⅱ-2「市民意向結果報告書」のP9、この中で改善度が一番高いものが「⑫車道と歩道の分離など安全で魅力的な歩行者空間の整備」、2番目が「⑩安全で快適な道路ネットワークの整備」、3番目が「⑬コミュニティバス等の利便性」で、全部、道路公共交通の改善を求める声というのが上位に来ているのがはっきり分かる。一方で、「⑫、⑬、⑭」等の北条でのまちづくりに関しては、かなり改善度が低くなっている。普通は中心市街地を整備して欲しいという声が聞こえることが多いが、それが聞こえずに、特にネットワークの部分、道路と公共交通に対してははっきりと出ているのはなかなかない傾向。コンパクトプラスネットワークの中のネットワークという部分を如何に考えて行くのが、都市計画マスタープランで重要ではないかと思う。
●●委員	<ul style="list-style-type: none"> ・北条の中心市街地に焦点が当てられなくなった原因はアンケートから分かるのか。中心市街地に対する要望が来てないのはなぜか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・単純に、たぶん人口だと思う。他市は、小野でも加東でも市街化区域の方が多いが、加西市は3分の1しか居ない。単純に人口のことで北条の声が小さくなっている。ただ、満足度という意味では高い満足度が出ているので、実際に住まれている方は色々あると思うが、全般的には、やはり調整区域に住まれている方は、言い方は悪いが不満が大きいと分析している。
田原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情を反映しているという言い方もできる。
●●委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどのアンケートの回答者で、調整区域の方が多いとかがあったと思

	<p>うが、回答の比率として高齢者の方が多いとか、そういう単純に多数決のような形で数が多く出てしまうと、若者の意見がなかなか取り入れられないのかなという所もちょっと気になる。年代別やそういった所の意見の分布みたいな物も見られたら良いと思う。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・結果しか説明していませんでした。参考Ⅱ-2「市民意向結果報告書」の P2、属性の所で年齢、確かにおっしゃるように高齢者が多いが、実はこれもアンケート調査票の配布比率を高齢者よりも若年層に振ったが、60 代以上の回答が半数近くを占めている。高齢者のご意見が多いことは、確かに全市として見ると否めない所はあると思う。 ・参考Ⅱ-3「市民意向調査の重要度・満足度・改善度のクロス集計結果」に年齢別があり、例えば P8～9 で 20 代、P10 から 30 代と分けている。P42 の一覧で見えていただくと、年齢別の中で動きが分かる。ただ、全市的な結果と特に若い層、20 代から 30 代をよく見ていたが、あまり大きな違いはなく、先ほど口頭でご説明した 20 代は「③集落の維持のため地域住民雇用の機会として市内企業を拡張するまちづくり」に、もっと重点を置いて欲しいという特徴があったことは出ているが、それ以外は、この若者世代での全市的な動きとの相違は大きくは見られなかったと考えている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっと補足する。回答者の属性で多数決ということは私どももしたくない。基本的に 10 年後のまちづくりを目指す物なので、若い方の意見を聞きたいということで、アンケート調査票は 20 代以上、10 歳ずつ同じ数を配布した。人口の割合で振るのではなくて同じ数を配布したが、結果として回答を多く寄せたのが 60 代ということをお知らせさせていただく。 ・データとして色々な項目がある中で、たぶん各部署によって、どこをターゲットにするかが変わってくる。福祉ならば当然、高齢層をターゲットにした施策を打たねばならないし、住宅政策ならば 30 代ぐらいをターゲットにするということもある。参考Ⅱ-3 で書いてあるクロス集計で年齢別とか地区別、男女別とかを出して、ターゲットを示している。これは先週、庁内ワーキングをした時にも皆さんには話をさせていただいた。自らの部署の施策として何をすべきかを、全体を見るだけでなくクロス集計したターゲットを重きに置いて考えて欲しいということは、強調をお願いしている。
田原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に重要なご指摘で、意識的に分析をしていただきたい。この参考Ⅱ-4「市民意向調査結果（市内と市外の比較）」は、先ほどの●●委員からのご質問に少し関係する所もある。必ずしも加西の特徴を浮かび上がらせるかどうかは分からないが、少し参考になる。何か特徴的な所があれば触れていただくと面白いと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・参考Ⅱ-4「市民意向調査結果（市内と市外の比較）」の P3、各グラフ

<p>田原会長</p>	<p>の上が都市計画マスタープランで取った市内アンケート、下が住宅マスタープランで取った市外アンケートの結果で、明確に差が出ているのは、例えば一番上の所、「①都市の機能を北条町中心部に集約するまちづくり」、立地適正化計画の目的のコンパクトシティについては、市内の方もそれなりに、5割が満足していただいているが、市外の方から見ると7割がまとまっていると評価していただいている。また、「⑩豊かな自然環境の保全」についても、市内の方は50%が満足しているけども、市外の方はそれ以上で7割である。これは魅力があると見ていただいているということで、不満を見つける際はたぶん市内の人の声を聞くべきですが、魅力を見つける際はたぶん市外の人の方がより見ていただいているのではと思う。長所を伸ばす、短所を補うという意味では、それぞれを使い分けることが大事かと思って、今後の作業をやっていきたいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先ほどの●●委員の質問のご趣旨とは、ちょっと違うが、本市の特徴がある程度、少し考えさせられる資料になっている。 ・他にございませんか。だんだん時間が押してきておりますので、どうしても今、聞いておきたいということがなければ、ここまでとさせていただきます。
<p>田原会長</p> <p>事務局</p>	<p>(3) その他について (連絡事項など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは議事(2)は、ここまでとさせていただきます。議事(3)その他で、何か特に、作成の方向なども含めて、もしご意見があれば承るべきだと思うが特によろしいでしょうか。 ・都市計画マスタープランと住宅マスタープラン、2つを同時に策定していて資料がとにかく多く、1つについて1時間足らずしか使えない、そういう状況でしたので、なかなか資料を読み込むのが難しい部分があり、後で読んでいただいております点があれば忘れないうちに事務局にどんどんご意見をお寄せくださるようお願いしたい。 ・以上を持ちまして本日の審議は終了したいと思う。委員の皆さま方のご協力に感謝申し上げます。それでは事務局に進行をお返す。 <ul style="list-style-type: none"> ・長時間にわたりご議論をいただきまして、誠にありがとうございました。本日は資料が多く、説明が時間的に足りないということもありましたが、私どもとしましては、やはり10年後に向けての方針を決めるに当たって、エビデンスという言い方もありますが、そういった物を見ていながら、声を聞きながら考えていくべきではないかと思う。また、住宅マスタープランと都市計画マスタープランを一緒にやるメリットで、市内と市外の声の違いも当然受け入れて考えていくべきで、当初、説明しましたが、基本的には、たぶん都市計画マスタープランの市街化調整区域のまちづくりが主になって行くでしょうけども、長期的な目標を定めて、今後、都市マスに関しては後1年、十分に作業をさせてい

ただけたらと思います。

- 今日、ご発言いただいた内容につきましては、今後の策定作業に反映させていただきます、来週の都市計画審議会でご報告させていただきますので、こういったご意見が出ているということ、またご案内しながら都計審の委員の先生方にも意見をうかがいたいと考えております。
- 本日、12時まで2時間掛かってしまいましたが、どうもありがとうございました。今回の委員会については、これにて終了とさせていただきます。

以上